



COVID-19 パンデミックにおけるロールシャッハの使用に関する ISR の見解

ISR 理事会

2021 年 1 月

まず初めに、大切なご家族や同僚、友人を亡くされた方々に哀悼の意を表します。世界中が大きな喪失に見舞われています。パンデミックはまだ収束していません。今も続いているというだけではなく、私たちの生活がいつ正常に戻るのかわからないという意味でも、終わりを見せていません。

このような状況を鑑み、これまで経験したことのない世界規模の難局におけるロールシャッハの使用について、ISR の見解を公表いたします。

まず押さえておかなければならないのは、COVID-19 は世界中に広まったパンデミックではありますが、各国の状況はそれぞれ著しく異なっているという点です。厳しいロックダウンの規制下にある国もあれば、政府による自粛の要請にとどまっている国もあります。サイコロジストの働き方における影響も同様に異なります。ある国では対面のカウンセリングは全く許されていませんが、別の国ではマスクを付け他の予防策が取られている限り、カウンセリングを行うことができます。

ISR は 20 か国の学会メンバーと、13 カ国からの個人メンバーから成る国際団体です。したがって、このたびのようなパンデミックあるいは類似の事態において、ISR がすべての国や状況に通用する提言を行うことは不可能です。ISR としてできることは、原則を再確認すべく、以下のような方針を発出することです。

1. 妥当な結果を保証できる図版はオリジナルの厚紙図版のみであるという ISR の立場に変更はない。
2. 遠隔テストは後がない状態での最終手段としてのみ考えられるべきである。ロールシャッハを遠隔で施行した場合、サイコロジストはそのことを明言し、結果はエビデンスに基づいていないこと、標準データを使うことはできないことについて、注意を促す必要がある。

目下の COVID-19 の状況が永遠に続くことはないにしても、今後また他のパンデミックや同じような難問に直面する可能性がないとも限りません。そのような局面に備え、ISR としては、国際的なネットワークを活用してデジタルカードのあり方や遠隔テストの施行法に関する研究及びデータの収集を開始することが賢明であると考えています。